

有形文化財【建造物】
記念物【史跡】
※二重指定

みさきおん
美崎御嶽

指定年月日／1956（昭和 31）年 2 月 22 日
所在地／登野城 32-1



美崎御嶽は、1500 年に起きた「オヤケアカハチの乱」に創建由来をもつ御嶽である。石垣島大浜を拠点に勢力を誇っていた豪族オヤケアカハチは、貢納を絶って琉球王府に反旗を翻した。しかし、約 3000 人の王府軍により乱は鎮圧され、アカハチは征伐された。

乱の鎮圧後、王府軍が本島へ帰途につく際、真乙姥という女性が、美崎山にこもって王府軍が無事に帰還出来るよう断食祈願をした。王府軍は、無事に返ることが出来たことから、美崎山は霊験あらたかな場所として美崎御嶽が建てられた。

以上の創建由来から、美崎御嶽は王府の公的な儀礼を行う公儀御嶽であり、古くから現地役人が旅立つ時の祈願や、在番や在番筆者など王府役人の離着任時、農耕儀礼を行う際に高官や大阿母が礼拝する場所とされた。石垣で囲われた広大な境内の中央部付近には、石門が設けられ、その奥にあるイビと空間を分けている。眉石の中央に火炎宝珠をのせた石門は、小規模ながら首里の園比屋武御嶽に似ているといわれている。

県指定

有形文化財
【彫刻】

とうりんじ におうぞう
桃林寺仁王像

指定年月日／1956（昭和 31）年 2 月 22 日
所在地／石垣 285-1（桃林寺）



吽形「金刚力士」

阿形「密迹力士」

桃林寺山門の仁王像で、山門に向かって右に阿形の「密迹力士」、左に吽形の「金刚力士」が寺の守護神として立っている。密迹力士の背面に刻まれた銘によると、この仁王像は 1737 年、久手堅昌忠を中心に川平正肖、小浜当明により制作されたとある。寄木法による木彫りで、材は島産のオガタマノキを用い、着色がなされている。

桃林寺は臨済宗妙心寺派の寺院で、山号は南海山。1611 年に八重山の検地を行なった薩摩藩が、尚寧王に社寺建立を進言したことから、1614 年に権現堂とともに創建された。八重山における寺社建立の始まりとされる。

1771 年の明和の大津波では、桃林寺も甚大な被害を受け、仁王像も流されたが、運よく崎枝海岸に漂着した。手足が破損し、しばらく蔵元に保管していたが、後年、大浜善巧（1768～1835）により修復されたと伝えられている。1993（平成 5）年 10 月から翌年 11 月にかけて、京都で本格的な保存修理が施された。桃林寺仁王像は、現存するものでは県内最古の仁王像であり貴重である。